神奈川県立麻生支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和8年度 麻生支援学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	令和8年5月28日（火）10:00～11：30
開催場所	麻生支援学校 会議室
出席者	委員 10名（本校校長1名含む） 学校職員 12名
会議資料	・グランドデザイン ・学校教育計画 ・教育課程編成表、日課表 ・学校運営組織図 ・令和7年度学校評価実施結果 ・令和8年度学校評価目標 ・令和8年度不祥事防止ゼロプログラム ・切れ目ない支援部会「つながる・ひろがるあさおプロジェクト ・令和8年度児童・生徒への丁寧なかかわりスタンダード
議事録	1 開会 2 挨拶（校長） 3 委員自己紹介 4 学校職員自己紹介 5 会長及び副会長の選任 6 協議会 〈学校評価部会〉 （1）説明（副校長） （2）意見交換 学校教育計画等について承認 〈切れ目ない支援部会〉 （1）説明（総括教諭） （2）意見交換（〇委員、●学校職員） 〇教務グループの業務において、研究は非常に大事である。校内研究の視点について説明をいただきたい。 ●4つのグループがあり、各自関心のある項目のグループに分かれて研究を行う。4つのグループのうちの1つがアセスメントである。 〇昨年度の研究成果を生かしているか。 ●そうである。昨年度もアセスメントのグループがあり、取り組んできた。感覚統合のアセスメント中心に考えていくことを今年度に引き継いだ。さらに研究を深めることや個別教育計画への反映、他校からの情報収集、授業に生かすための方策など、テーマによりグループを細分化し、研究を進めている。 ●地域に発信していくことをテーマにしている。そうした方法についてもご意見をうかがいたい。 〇感覚統合の手前に「感覚特性」を確認する。保護者が子どもをどう見ているかということと学校生活での本人の特性を比べた時の違いが重要。適応するための努力や無理をしている状況があるのかを見ることができる。そのためには保護者に学校で何を取り組んでいるかを伝える必要がある。アンケートなどで具体を確認できるとよい。 ●進めるうえで参考としたい。 〇筑波大学の渡辺三枝子先生による「今をしっかり生きなければ将来はない」という言葉がある。小学部から順序だてて積み重ねる必要がある。1年生のときから芽生えがある。高等部になってからいきなり取り組むようでは難しい。 ●小学部段階からイメージしていくことは大事であることを進路担当とも共有している。 〇子どもたちに自己決定する力を育てることは大切だと考えている。昼食時のメニュー選びにおいても自分が食べたいものを選び、決められるようになってほしい。そのためには情報を得て、判断する経験の積み重ねが必要。小学部段階から子どもたちにどのように伝えるか。災害時の個別避難計画について学校も知っておかなければならないと考えている。在宅での発災時をベースに計画されていると思うが、学校での取り組みにつなげるためにも情報共有をしていきたい。在校生はデジタル社会の中で生きてきている。暮らしていくには欠かせないがいろいろな人とつながることの大切さを身につけさせたい。今後の部会でもご意見を伺いたい。 ●今後も情報をお知らせいただきたい。

	〈学校設置部会〉 ①スクールバス地域救援部会 （1）学校のスクールバスに関する現状と災害時における主な課題について説明 （2）意見交換 ⇒避難、待機所の候補になりそうな場所についての情報や意見が挙げられた。今後の検討の参考としていく。 ・市内の県立高校は体育館や校庭が広く、スクールバスの避難・待機場所の候補として有効と思われる。一方で、震災発生直後には近隣住民の一時的な避難場所となり、数日後には警察や自衛隊など他県からの応援部隊が使用する場所となることが防災計画に定められている。そのため、県立高校にも災害時の役割があることを念頭に置く必要がある。 ・新百合ヶ丘駅北口は再開発が予定されているため、スクールバスが立ち寄れる場所について意見・要望を示すよい機会であると思われる。 ・スクールバスの避難・待機場所の候補として、物流センター、大型スーパー、ドラッグストア、コンビニ、バス営業所などが挙げられる。 ②丁寧なかかわりのスタンダード部会 （1）今年度の取り組みとその目的の説明について説明 （2）意見交換 ⇒取り組むにあたって、集団での考え方の共有や信頼関係づくりにおいて、委員の経験や考えについてご発言をいただいた。 ・今年度の各学部の取り組みをエクセルに入力後、AIにまとめてもらうと新たな視点があるかもしれない。併せてAI活用に向けた研修も必要。並行して職員間で言葉に出して共有していく機会を設ける。「ワールドカフェ方式」が有効。 ・ていねいなかかわりの根本にあることは「その人のことを知りたい」ということだと感じる。本人も自分自身を知ることにつながる。卒業後の方の様子から、学校で何を体験してきたかが重要だと感じる。強度行動障害の方にとっても、個別対応だけでない経験が必要である。また、教員同士のかかわりも重要。 ・保護者の立場から、「ていねいなかかわりのスタンダード」の詳細版に掲載されていた「パニックには原因がある」と書かれており、そのように考えたことがなかったのでとても勉強になった。 協議まとめ（会長） 各部会の報告を聞き、自身が行ってきたこととの重なりを感じた。武山支援学校の校長をしていたときにはBCP（事業継続計画）を考えていた。また、学生時代に感覚統合に取り組んでおり、書籍を何十回も読んだ。しかし、当時と今は状況が違うと思う。物事はスパイラル状に上昇している。今はAIやICTの進歩がある。その部分を伸ばしていく必要性をつくづく感じた。 7 事務連絡（事務局） 8 挨拶（校長） 9 閉会